

中澤／2

子供たちへの指導より、
保護者が学ぶ場。
聞こえない子供の子育て。

(2)

生後間もない子も来る。
以前は6カ月前後が多かったが、
スクリーニング検査普及で、
早期に来る。
呼びかけ、おもちゃの音に気付かない。
声が出ない。
発達が遅いかも。
そういった親が多い。
就学前のこどもと親と一緒に、
継続的な相談にのる。

3

(1)

生後2～3カ月から早期発見が
できるようになった。
重度重複も、
発見数も多くなった。

(3)

①
生まれてすぐ実施。
ここでリファーマと言われた親へのケア。
情報提供が始まる。
この時の母親は、
なぜうちの子だけ、と思う。
つらい時期。

③

6～7カ月からできる。

④

聴覚確保、
心理ケア、
母親への支援が始まる。

⑤

教育、療育のスタート。
保護者への継続的なケア、
不安な母親への支援、
情報提供、
発達と合わせたレベル検査。
これらを行っていく。